

令和5年度 第2回 光が丘中学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和5年9月29日（金） 午後1時30分から午後3時15分まで
- 2 開催場所 浜松市立光が丘中学校 会議室
- 3 出席委員 甘蔗 孝仁、松井 章泰、溝口 玄、笹竹 和行、森下 智子
實森 浜代、坂井 久司、鈴木 忠
- 4 欠席委員 青山 敏郎
- 5 学 校 山下 拓（校長）、古橋 康浩（教頭）、横山 貴美恵（CSディレクター）
- 6 傍 聴 者 なし
- 7 会議録作成者 CSディレクター 横山 貴美恵

8 議長の選出

司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、会長から坂井委員にお願いしたいとの発言があり、全員異議なくこれを承認した。本日は、坂井委員が議長を務めることとなった。

9 熟議事項

- （1）生徒の様子について ～授業参観を踏まえて～
- （2）中学校の現状における課題について
- （3）令和5年度地域の協力者による授業支援について

10 会議記録

司会の教頭から、委員総数9人のうち8人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

（1）生徒の様子について ～授業参観を踏まえて～

議長の指示により、教頭から、文化発表会延期の件と、別紙資料表紙の写真に基づき、部活動の様子について説明があり、委員からは、以下の発言があった。

- ・ 授業参観により、子供達は明るく良い雰囲気だと思った。板書の様子から、どの授業も内容についてよく分からなかった。（溝口委員）
- ・ 6月30日の参観も観たが、その時はICTもよく使い、活発な授業の様子ですごく良かったが、今日の参観は少しトーンダウンした様子で残念だった。（松井委員）
- ・ 1年生は元気が良くて良い。上の学年になるとやや声が小さかった。先生も大きな声で導いてくれると良いのではないか。（實森委員）
- ・ 先生が生徒を出席番号で指名していたが、あれは理解した上で行っていたのか。（会長）
→意図的に行っていた。その生徒を理解した上での意図的な指名である。（校長）
- ・ 英語の先生は声が良く出ていて良い。（森下委員）
- ・ 英語の先生の教え方が上手だと思った。理科で電池の電圧等一般的なことの質問が出されたが、生徒にはすぐ答えてほしい質問であった。（笹竹委員）

- ・元先生の厳しい意見もあるが、生徒全員が授業に集中していた。調理室はスポットクーラーがついていたものの、やはり暑いようだ。(坂井委員)
- ・授業については、今後も教師と相談して進めていきたい。課題のある子については丁寧に対応する。今回のご意見を教員と共有して対応したい。(教頭)

協議の結果、「生徒の様子について ～授業参観を踏まえて～」は、承認不要とした。

(2) 中学校の現状における課題について

議長の指示により、校長から不登校の生徒が多いことについて説明があった。

- ・夏休み明けから不登校および不登校傾向の生徒が増えている。
- ・本課題について継続的に課題を取り上げるようにする。
- ・不登校生徒については個々の事情が異なるため、本会議では現状をお伝えしたい。

教頭より現状や対応について下記5点について説明があり、委員からは、それについて、以下の発言があった。

- ・全校生徒183名、月の欠席が5日以上、年間30日以上を不登校とする。
(不登校の現状省略)
- ・家庭とは週に1回、2週に1回等の定期的な訪問や連絡を、相談の上で行っている。
- ・タブレット等を用いて、学習を進めている子もいる。
- ・すぎのこ教室や、かやのき教室の体験等も紹介をしている。
- ・発達支援教室の設置はできていないが、保健室等を適宜利用している。
- ・不登校の原因は学校で把握できているのか。(会長)
 - 明確な原因を特定するのは困難である。個々の事情に応じて、学校として関われる部分で関わっている実情にある。(教頭)
- ・校内適応教室をつくりたいのか、学校に支援員を充てたいのか。(松井委員)
 - 将来的には発達支援教室を作りたいと考えている。小学校の時に発達支援教室を利用していたが、中学にはないため相談場所がないと感じている生徒もいる。現在はすぎのこ教室に行っている。教室に入れない状態。子どもが学校内に来られる状態を作りたい。(校長)
- ・先日ある不登校研修に参加した。学校に来させることは居場所(ができること)になるが、居場所は学校だけではない。学校に来ることを目的にするのではなく、将来自立できるようにすることが目的。原因が家庭にあるのか、いじめなのか、貧困なのか、複雑なので対応は難しい。(坂井委員)
- ・スクールカウンセラー(以降、「SC」と省略)がいることで、学校に来ることはできる子供がいた。保健室等でも良いが、それぞれの子供による対応ができる環境があれば良い。(溝口委員)

- ・先生や大人の人が見守る体制ができれば解決に向かうのかもしれない。(鈴木委員)
- ・先生だけでは対応が難しいとのことで、SC ほどのように活躍されているか。(笹竹委員)
→月1、2回来られて、子供の授業の様子を確認したり、保護者の面談を行ったりしている。(教頭)
- ・校内に支援する場を設けるにはどうしたら良いか。(笹竹委員)
→昨年度、市の方にそのような教室の設置等の要望を挙げたが、今年度は設置されなかった。人の確保もあるし、なかなか難しい。(校長)
- ・学校に来ている民生委員・児童委員の立場からすると、学校に行くことが難しくなった子に気づくことも難しいし原因も分かりにくい。学校に行かなければいけないとするのではなく、将来を考えた対応をしていく方向がいいのでは。ゆっくり休ませることが必要な時もある。つらさを話しながら寄り添いたい。進路等がどうなるか気になる。民生委員・児童委員には高齢者の情報はあがるが、子供の情報が入りにくいのは今後の課題である。(實森委員)
→不登校の子については、その子の実情にあった進路を勧めている。受検して進学する場合もあるし、定時制や不登校だった子の受入体制が整っている学校もある。(教頭)
- ・不登校の原因が多々あり、教師や親も悩んで対応していることが分かった。明確な理由もなく、多岐にわたる。救いの手が何かあればと思う。(森下委員)
- ・発達支援学級、発達支援教室、校外適応教室(現まなびの教室)、校内適応教室がある。発達支援教室から校内適応教室になった学校もある。浜松市内では、そういった教室が増えてきている。協議会委員、地域として、「各役割の中でできることはないか」と考えていただけると有難い。民生委員・児童委員が関わる中で良い方向に向かったケースもある。(教育総務課)

協議の結果、「中学校の現状における課題について」は、承認不要とした。

(3) 令和5年度地域の協力者による授業支援について

議長の指示により、教頭から別紙資料(8頁)に基づき、令和5年度地域の協力者による授業支援について説明があり、委員からは、それについて、以下の発言があった。

- ・講演会の予定日は決定ということで良いか。(松井委員)
→決定日と捉えていただいて構わない。(教頭)
- ・光が丘中の生徒に文芸作品を出してもらっている。現在編集中であるが、国語の先生方にお礼を伝えたい。(溝口委員)
- ・地域や子どもたちも生き生きしてやっているので、ぜひ見に来て欲しい。(笹竹委員)
- ・教育相談員は学期ごとに校長と情報交換をしている。主任児童委員も地域の子供を知ろうと学校を訪問すると良い。正直、学校の敷居は高い。気軽な気持ちで校長に会いに来るくらいのことができれば良い。高校と中学の連携等はどうか。連携することで授業支援の対応ができるのでは。(松井委員)

→学校から個人情報を出すことは難しいと思われるが、今年度、民生委員・児童委員と学校の情報交換会を復活させたところである。(坂井委員)

→今年度久しぶりに実施したため、情報交換会の進め方について、以前の状況の明確なものがなかった。今後少しずつ整備できればと思う。(校長)

協議の結果、「令和5年度地域の協力者による授業支援について」は、承認不要とした。

【その他報告事項等】

- ・司会から、次回会議は、令和5年12月1日(金)午後1時30分から会議室で開催する旨の説明があった。
- ・司会から、先日延期となった文化発表会は、令和5年11月17日(金)天竜壬生ホールで午前9時45分より開演する旨の説明があり、委員の方へ参観いただけるよう促した。
- ・司会から、第3次浜松市教育総合計画後期計画の実態把握調査について、説明があった。
- ・教育総務課から、学校運営協議会の自己評価表について、説明があった。